

ファイヤーウォール

2006(平成18)年4月16日鑑賞(道頓堀角座)



監督＝リチャード・ロンクレイン／出演＝ハリソン・フォード／ポール・ベタニー／バージニア・マドセン／メアリー・リン・ライスカブ／ロバート・パトリック／ロバート・フォスター／アラン・アーキン (ワーナー・ブラザーズ映画配給／2006年アメリカ映画／106分)

第1章

あなたは
何本見た？

……コンピューターネットワークへの不正アクセス問題は、「Winny」の例を挙げるまでもなく大問題！ いくら銀行のコンピューターシステムが鉄壁の「ファイヤーウォール」であっても、その設計者自身がその気になれば……？ そんな現代的かつ現実的な10億ドル強奪ゲーム(?)に巻き込まれたハリソン・フォードが、家族を守るために果敢に闘うのがこの映画。還暦を超えてなお、若者顔負けのアクションをこなすハリソン・フォードの姿は、感動的ですからあるが……？



「ファイヤーウォール」とは？

「ファイヤーウォール」とは「火の壁」ではなく、外部ネットワークからの不正侵入を阻止する電子の防壁のこと。今や大きな社会問題となっている「Winny」の例を挙げるまでもなく、コンピューターネットワークへの不正アクセス問題は、ネット社会の根幹を揺るがす大問題。最悪の事態は、その不正アクセスが軍事面に「活用」され、どこかで誰かが核兵器の発射ボタンを押すこと……？

しかしそれ以外にも、個人情報の漏洩はもちろん、会社間の取引や株取引等における情報合戦、不正アクセスは現にいくらかでも「活用」されているはず……。しかして、不正侵入はありえないという鉄壁のセキュリティシステムに守られているはずの銀行のネットワークに、誰かが不正に侵入してきたら……？

問題はやはり人間

この映画の主人公、ジャック・スタンフィールド（ハリソン・フォード）は、シアトルのランドロック・パシフィック銀行のセキュリティ部門の最高幹部。そしてコンピューター・セキュリティのスペシャリストである彼が構築した盗難防止システムは、業界で屈指の防衛力を誇っているとのこと。つまり、絶え間ない不正侵入から銀行の資産を守る難攻不落の電子の防壁が、ファイヤーウォールというわけだ。

他方、より強い競争力をつけていくため日々進んでいるのが、日米に共通する銀行間の合併。今、アキュウエスト社との合併が決まったランドロック・パシフィック銀行は、人事面をはじめ、そのシステムやセキュリティの統合問題に大わらわ……。まさかアメリカでは、ホリエモン騒動による株取引の急激な増大によって東京証券取引所のシステムがダウンしたような情けない問題は起こらないだろうが、日本では既に、東京三菱銀行とUFJ銀行との合併・統合の中、コンピューターシステムの不備が露呈されたことを見れば、アキュウエスト社と合併するランドロック・パシフィック銀行も、万全の準備が必要……？

ハリソン・フォードはまたもスーパーマン……？

ハリソン・フォードが主演として登場する映画は、『エアフォース・ワン』（97年）での大統領役をはじめとして、知識、行動力、統率力、思いやり、家族愛その他、あらゆる面において、完璧な能力を持ったスーパーマン役が多い。しかしこの映画でも、ジャックはまず、コンピューターの扱いなら何でもござれという人物。ホリエモンみたいな若い奴ならともかく、銀行の最高幹部に就任している年齢のオッサンに、ホントにそんな能力があるのと誰もが疑問に思うはずだが、ハリソン・フォードは、それを堂々（しゃーしゃー）と……？

ハリソン・フォードが示すスーパーマンぶりは、年に似合わぬスピーディーな状況判断や、後半に至って次々と示されるおじさんアクションの数々にも……。そして極めつけは、ハリソン・フォード映画恒例の（？）、家族のために果敢に闘った強い父親によって、悪者が退治され、無事妻子の安全が守られ、ハッピー

エンドを迎えるというスタイル。別にそれに文句をつけるつもりはないが……？

妻のベスはハリソン・フォードのご指名とか……？

この映画でジャックの妻、ベスを演ずるのは、『サイドウェイ』（04年）のマヤ役でアカデミー賞とゴールデン・グローブ賞にノミネートされたバージニア・マドセン。それまで演技力は認められながらも、メジャー級映画に登場していなかったバージニア・マドセンにベス役の白羽の矢を立て、直接彼女のケイタイに電話をしたのが、ハリソン・フォード自身とのこと。しかし、年齢のことをよく考えてみると、これもかなり厚かましいのでは……？ だって、ハリソン・フォードは1942年生まれであるのに対し、バージニア・マドセンは1963年生まれだから、21歳も年が違うヨ……？

カッコいい悪役にビックリ……？

映画を成功させるためには主役はもちろん大切だが、敵役もそれ以上に大切。とりわけ「ハリソン・フォード映画」では、ハリソンおじさんのスタイルは事前におおむね想定できるため、敵役がどんなスタイルで登場するかが重要。そして、この映画ではそれは二重マル……。

1年間もジャックの個人情報すべて収集するという用意周到な準備のうえに、ジャック自身を実行犯とさせて、ランドロック・パシフィック銀行のファイヤーウォールに侵入し、1億ドルを自分の口座に送金させるという計画を立案し、実行したのはビル・コックス（ポール・ベタニー）。このビルは、コンピューター知識においてはジャックに遠く及ばないものの、それを補うスタッフたちを多数用意しているうえ、その組織としての指揮・命令システムもしっかりしたもの。

さらにビルは自分自身を「起業家」として売り込み、コンピューター・セキュリティのエキスパートであるジャックと、法執行のエキスパートであるハリー・ロマノ（ロバート・フォスター）の2人の力を合わせて、新会社を設立すれば万全と提案するなど、やることは知的でスマート。したがって、ジャックもハリーもこの提案に心を動かされたことは、まぎれもない事実……。そんなビルはあくまで理詰め（？）で、支配下においたジャックやジャックの家族に対して、と

るべき行動を具体的に説明していくのだが……？

秘書も大変……

アメリカの大企業の役員には、1人ずつ秘書がついている。ジャックの有能な女性秘書がジャネット・ストーン（メアリー・リン・ライスカブ）だが、どうもジャネットは自分の電話を通さないで勝手に面会予定が入ったり、いつもヒソヒソとジャックと2人だけで話をしているビルに対して、「イヤな感じ」と思っていた様子。しかもビルの登場を境に、明らかにジャックの人格が変わってしまったから、「何かヘン」と感じていたのは当然……。

しかしそんな秘書を「丸め込む」のも、ビルからジャックに与えられた任務の1つ。そして遂には、ビルから「あの秘書をクビにしろ」と言われたジャックは、やむなくそれを実行。アメリカでは、ホントにこんなに簡単に秘書をクビにすることができるのかどうか知らないが、何の合理的根拠も示さないまま、急に「今日でクビだ」と言われたジャネットはたまったものではない。しかし、これでジャネットの役割はおしまいと思ったら、大まちがい。映画終盤になって、このジャネットは不当解雇（？）のうっぶんをはらすかのように、再度ジャックの片腕となって大活躍するから、これにも要注目……。

人質の扱いは超模範的だが……？

アメリカが民主主義の国だということを、私は大いに信用している。また、その裏返し（？）としての、自由競争の激しさや貧富の格差、人種差別などの存在も、私は必要悪だと割り切っている。しかしそうだからといって、戦争や誘拐事件などの極限状態に置かれた場合、民主主義国家の人間と社会主義・共産主義国家の人間の対応が大きく異なるとは考えていない。その典型例が、捕虜や人質に対する取り扱い。もちろん国際条約の存在や人道主義的見地、あるいは宗教的視点から、捕虜や人質の虐待を厳しく禁じようとしていることは全世界・全人類共通だが、現実はず……？

回りくどい言い方になったが、ここで私が言いたいことは、イラク戦争におけるイラク人捕虜に対するアメリカ（兵士）の対応は、必ずしも教科書どおり、模

範的だったとは言えないはずだということ。そして、そのことと対比しても、この映画でビルやその部下たちが、人質とされた妻と2人の子供たちに対してとる行動は、あまりにも模範的すぎて現実味がないのではということ……？

ちなみに、身代金目的誘拐をテーマとした面白い映画が『コール』(02年)だったが、ここでは人質とされた美しい人妻が、犯人との間で一夜限りの楽しいセックスのお相手をさせられることは、織り込み済みだったはず……？(『シネマルーム4』96頁参照)

もちろん、ビルは紳士だから(?)、ジャックや人質となった家族たちが指示したとおりの行動をとってくれば、模範的対応をすることもよくわかるのだが、これだけ「反乱」をくり返す人質たちに対しても、なおやさしく接しているのは、あまりにもアメリカを美しく描きすぎ……？

2006(平成18)年4月20日記

ミニコラム

鉄壁の守りも、女にはご用心……

『ファイヤーウォール』では、鉄壁のコンピューターシステムに侵入するためには設計者の協力が不可欠だったが、古今東西を問わず、鉄壁の守りが崩れるのは女からという例が多い。古くは呂布と董卓を仲違いさせるべく、王允が美しく成長した養女、貂蟬を提供するという「連環の計」は『三国志』で有名な話。

また、呉と越が戦った春秋時代に「臥薪嘗胆」の言葉が生まれたのは、世界四大美女の1人西施^{せいし}を越王勾践が呉王夫差に提供したのがきっかけ。ちなみに「傾国の美女」とはここから生

まれた言葉。近時は、海上自衛隊の1等海曹が1年2カ月の間に8回も無断で上海に渡航していたことが発覚し懲戒処分を受けたが、これは中国人女性とカラオケ店で密会するためだったことが判明。

また、上海の日本国総領事館で通信事務を担当していた職員が遺書を残して自殺した背景に、中国人女性との密接な交際があったことが判明している。これらを見れば中国はその道の先進国？ くれぐれも女にはご用心……？

2006(平成18)年8月16日記